

特集・就任挨拶

熊本大学大学院生命科学研究部 代謝内科学講座

教授 窪田 直人



このたび令和5年（2023年）10月1日付で熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学講座教授を拝命いたしました窪田直人と申します。皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

糖尿病は現在わが国で約1,150万人を数え今なお増加し続けています。糖尿病およびその合併症の克服は我が国における喫緊の医療課題の一つであり、今後も当教室が果たすべき役割は極めて大きいと感じています。また、内分泌領域では、「日常診療に潜む内分泌疾患を見逃さない」をモットーに、様々な診療科と緊密な連携を取り、診断・治療を行っていきたいと考えています。

大学病院は、医師等の育成のための教育機関、新しい医学を切り開きそれを医療の現場に普及させる研究機関、そして高度な最先端の医療を提供する地域の中核的医療機関として、重要な役割を担っています。近年では急速な高齢化により疾病構造が糖尿病をはじめとする慢性疾患にシフトし、在宅を含め長期の療養生活を送る人々が増えたことから、質の高い医療やアクセスの改善も新たに求められるようになってきました。一方で、日本経済の低迷なども相まって社会はそのコストを負担することを望まず、そのしわ寄せが研修医をはじめとする若手・中堅医師に及んでおり、医師の過重労働や大学病院離れといった課題が浮き彫りになってきています。

私はこうした現状や課題を念頭に置いた上で、熊本大学/熊本大学病院の理念やミッションに基づき、診療・教育・研究のバランスを取りつつ、一緒に勤務する教室員にとって魅力的な職場、少しでも長く働きたいと感じられる環境を醸成し、教室の発展に尽くしたいと思っています。特に対人関係におけるリスクを取っても安全と信じられる職場環境、率直であることが推

奨される文化、みんなが気兼ねなく意見を述べることができ、自分らしくいられる雰囲気を大切にしたいと考えています。そして教室員が一体感をもって診療に従事し、専門性を生かしつつ総合的な臨床力を培うとともに、「伝統の継承」と「新たな挑戦」を大切に、研究の重要性や楽しさを感じてもらいながら、オリジナリティが高く本質的な疾患科学研究（基礎研究・臨床研究）の発信を目指していきたいと思います。

最後になりましたが、肥後医育振興会の会員の皆様には今後大変お世話になるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

熊本大学大学院生命科学研究部 総合医学教育学講座

教授 吉田 素文



令和5年（2023年）7月1日付けで、熊本大学大学院生命科学研究部総合医学教育学講座に着任いたしました、吉田素文と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、昭和38年（1963年）1月に、熊本との県境にある福岡県大牟田市に生まれ、中学まで過ごし、熊本のテレビ放送を見て育ちました。センタープラザのCMとばってん荒川は、我が心の友です。久留米大学附設高校を経て、一浪して九州大学医学部に入学、昭和63年（1988年）に医学部を卒業し、杉町圭藏先生が主宰されていた九州大学外科学第二教室、（現消化器・総合外科学分野）に入局しました。外科研修の後、大学病院の腫瘍センターで制癌剤の研究を始め、平成3年（1991年）から平成6年（1994年）に米国ヒューストンのMD アンダーソン・キャンサーセンターで、プラチナ系制癌剤と薬剤耐性の研究をしましたが、そこで、佐谷秀行先生、中尾光善先生と出会い、家族ぐるみで行楽や旅行に行くなど、交流がありました。熊本大学とは、不思議な縁があるなあと感じています。

帰国後は、市中病院で術後の癌化学療法の治験の患